

知ろう学ぼう人権

そっとしておけば部落差別はなくなる？

「あの人は部落出身だから」「同和地区に住む人とは関わらないほうがいい」

このような発言は部落差別にあたります。部落差別(同和問題)とは、日本特有の人権課題であり、特定地域の出身・在住であることを理由とした差別行為のことを表します。

この問題は、そっと放置しておけば時代の変化とともに解決するものだといわれることがあります。また問題を知らない人に教えることは逆に差別意識を芽生えさせてしまうのではないかといわれることもありま

す。しかしこのような「寝た子を起すな」という考え方は、差別はなくなりません。部落差別に対して正しい理解を持たない人へ、周囲の人やインターネットから誤った情報を教えられてしまうと、その情報を正しいものと理解してしまいます。またその情報をインターネットで拡散してしまう可能

性があります。誤った情報に惑わされたり、伝達して拡散したりしないために、私たちは差別問題についてももつて正しく理解することが大切です。

あらゆる人権問題の解消に向けて、社会全体で差別をしない、させない意識を持つことが必要です。

10月は大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例」啓発推進月間

大阪府では、部落差別事象の発生を防止し、基本的人権を守るため、部落差別事象を引き起こすおそれのある個人及び土地に関する事項の調査、報告等の行為を規制しています。

部落差別につながるおそれのある調査の依頼をやめ、差別のない明るい社会を築きましょう。

問合せ先 大阪府府民文化部人権局人権擁護課人権・同和企画グループ
☎06・6210・9282

問合せ先 協働人権課人権推進担当(1階④番窓口) ☎939・1059

(特集) 2025大阪・関西万博の魅力に迫る!

大阪・関西万博が令和7年ついに幕を開けます! 150以上の国・地域が集う一大イベント! このコーナーでは 2025年日本国際博覧会協会の西本敬一さんから万博の魅力を語っていただきます。



第4回 万博の魅力②「いのちの未来を考えてみませんか」

「いのち輝く未来社会のデザイン」

大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。人間だけでなく地球上の全てのいのちが輝く未来社会をどう実現するか。一人一人がいのちの未来を自ら考え、世界と共にデザインしようとの想いが込められています。

シグネチャーパビリオン

このテーマに真正面から取り組むのが、シグネチャーパビリオンです。8人のプロデューサーが8つのパビリオ

ンでいのちの多様性に迫ります。この機会に、自分のいのち、そして地球上の全てのいのちの未来を考えてみませんか。



▲詳しくはこちら

いのちを表すミャクミャク

ミャクミャクも、いのちを表現したキャラクターです。赤い部分の細胞と青い部分の清い水がひとつになって生まれたふしぎな生き物。過去から未来へ様々なものを「脈々」と受け継いで欲しいとの意味も込められています。



西本敬一

平成12年ハノーバー万博日本館で総合プロデュース業務に従事。大規模万博(ハノーバー、愛知、上海、ミラノ、ドバイ)を視察調査。ドバイ万博では現地調査を通じて全192パビリオンを分析。令和4年8月~日本貿易振興機構(JETRO)から2025年日本国際博覧会協会に出向。

問合せ先 日本国際博覧会協会総合コンタクトセンター ☎0570・200・066